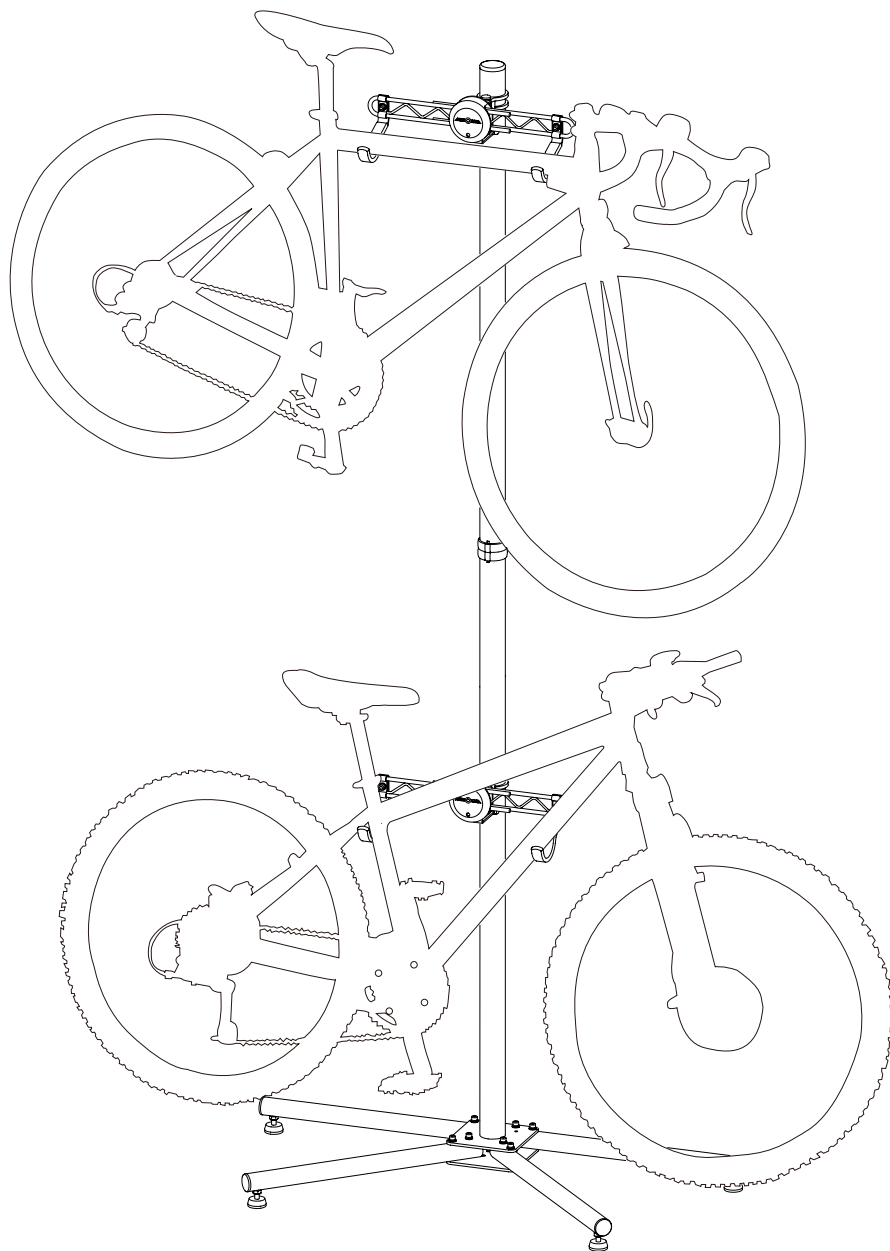


**!** ご使用の前にこの説明書を最後まで読み正しくお使いください。



(脚をK字型にした状態での使用例)

### P-500AL-6S の特徴

- 支柱は軽量で錆びにくいアルミ製。支柱の耐荷重は最大 100kg まで (X 字脚の場合)
- 設置場所や収納台数に合わせて、ベース形状は脚を組み換えることで、K 字型あるいは X 字型の 2 パターンが選べます
- バイククレードルはアルミ製クランプにより簡単に装着・位置変更が可能
- フックは自転車を掛けやすいロープロファイルタイプ。フレームを傷つけない樹脂パッド仕上げ。最大 70mm 径までに対応
- クレードルはバイクタワー 20 と共通の新型トラスデザイン。伸縮と角度調整が可能

### ! 注意していただきたいこと

- 通常の 2 輪自転車専用です。重量バランスの取りにくいタンデム車やリカンベント、ロングテール車ではお使いいただけません。また重量のある自転車は上段クレードルでは使わず、下段でのみお使いください。
- 各脚のアジャスタを正しく調整し 4 ヶ所の接地点が同時に床に接するようにし、支柱が正しく直立するように設置してください。
- 上下支柱の連結部ボルトは定期的にチェックし、緩みのないように増し締めしてください。横から見て支柱が「く」の字に曲がっていたらボルトが緩んできています。
- 上段クレードルにだけ自転車が残るようになる際は重心が高くなり不安定になります。
- トップチューブで掛けてください。ダウンチューブだけでは掛けないでください。
- クレードルを固定するボルトは正しくクランプにねじ込んでください。またクランプはアルミ製のため締め過ぎに注意してください。ねじ穴をなめてしまいます。
- K 字型脚にセットした場合は、後方への転倒による事故を防止するため背面が壁になる場所に設置してください。またオプションの各種アタッチメントは支柱背面には装着しないでください。

## お問い合わせ先

組み立て方や使い方についてのご質問は、まず最初にこの商品を購入したショップにお問い合わせください。万一部品欠品などがありましたら弊社カスタマーサービスにまでご連絡ください。

### <販売元>

株式会社 フカヤ

〒 460-0015 愛知県名古屋市中区大井町 1-37-3F

Phone (052) 228-8910

Fax (052) 228-8917

Web [www.fukaya-nagoya.co.jp](http://www.fukaya-nagoya.co.jp)

### <製造元>

株式会社 箕浦

〒 503-2312 岐阜県安八郡神戸町下宮 134-1

Phone (0584) 27-3131

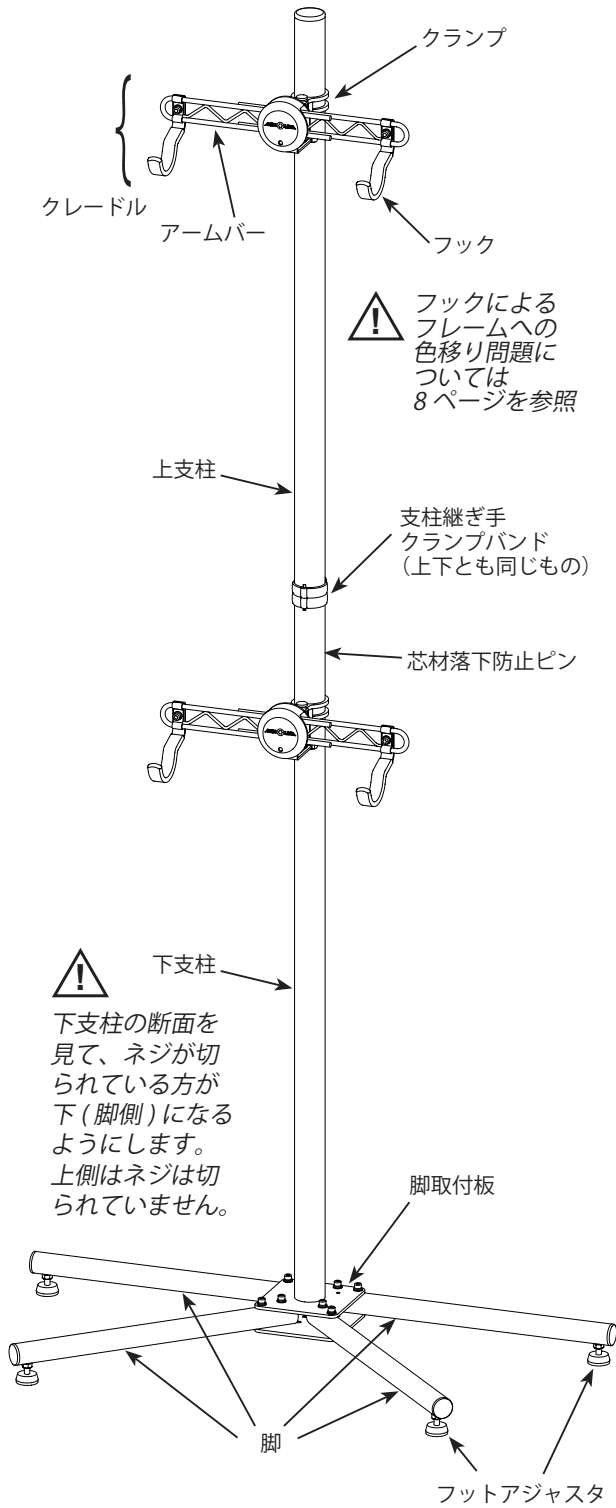
Fax (0584) 27-7505

Email [infodesk@minoura.jp](mailto:infodesk@minoura.jp)

Web [www.minoura.jp](http://www.minoura.jp)

日本製

## 各部の名称



## 組み立てに必要な工具

5 ミリ六角レンチ (添付)	1 本
13 ミリスパナ (添付なし)	1 本

(添付されていない工具はご自身で用意してください)

## ボルトサイズの読み方

(単位：ミリ)



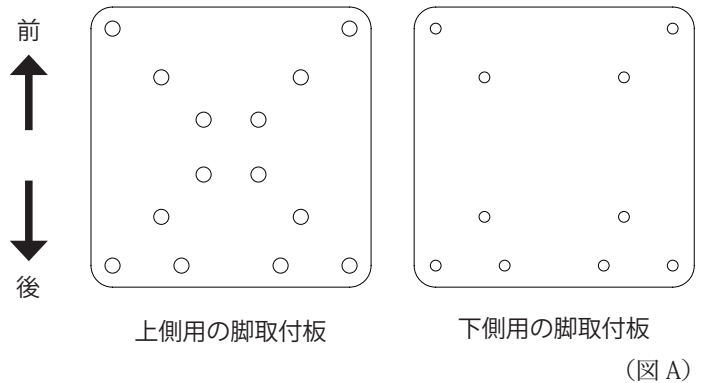
## P-500 をK脚で組み立てる

脚をK字型で組み立てると、壁などに寄せて省スペースに自転車を収納できるようになる反面、バランス不良による後方への転倒を避けるため自転車は前面だけにしか搭載できず、搭載台数も2台に制限されます。

**1**

まずはじめに脚取付板を確認します。

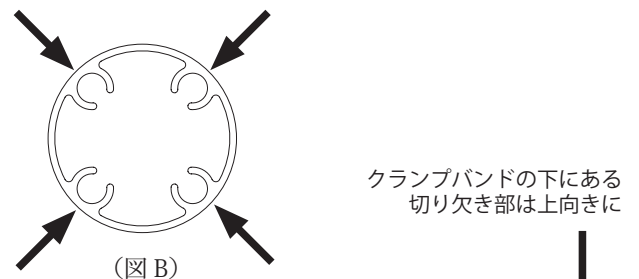
2つは同じものではなく形は異なります。上側になるものはボルトが素通しできるような大きめの孔があけてあり、中央に下支柱に取り付けるための4つの孔が設けられています。下側になるものはボルトをねじ込むためのネジが切られた小さい孔があいており、中央部の4つの孔はありません。また孔のパターンはそれぞれ上下対称ではありません。外縁部に横並びに4つあいている側が背面側になります。(図A)



**2**

次に下支柱の上下方向を確認します。

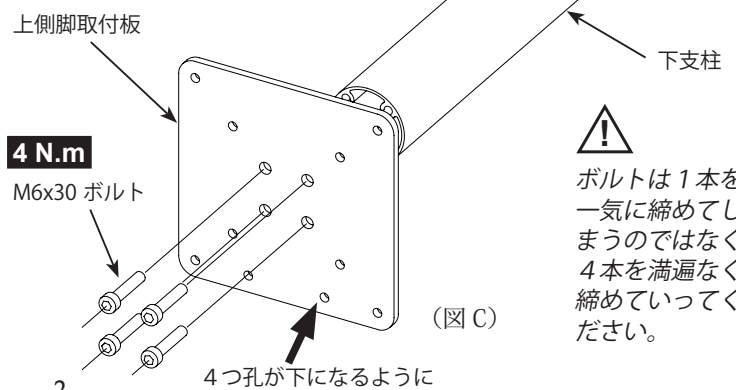
下支柱の断面を見て、4つあるC字型の溝部分にボルトをねじ込むためのネジが切られている方が下側(脚が取り付けられる側)になります。ネジが切られていない方は上支柱と接続される側になります(図B)。(上支柱には樹脂キャップが装着されています)



**3**

支柱は、クランプバンドの下にある切り欠き部が正面に来るように使います。

切り欠き部を上に向けて置いた下支柱に、上側脚取付板を図Cのようにセットし、中央の4ヶ所の孔にM6x30ボルトをねじ込み、添付の5ミリ六角レンチを使って4N.mで締め付けて固定します。

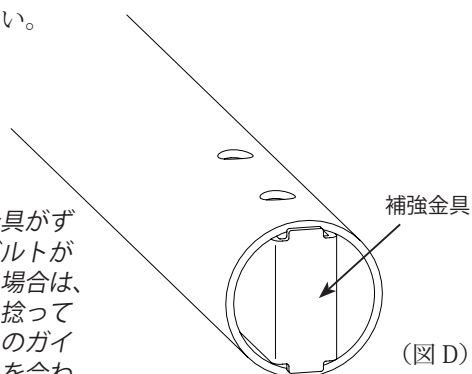


## P-500 をX脚で組み立てる

脚をX字型で組み立てると脚の踏ん張りが効くようになるため、支柱前面の他に背面にも別売アタッチメントを取り付けて収容台数を増やすことができますようになります（最大4台まで。ただし合計荷重は最大 100kg まで）。またK脚のように方向性が決められてしまうことがなくなるので自由に配置できます。その反面、設置面積はK脚よりも大きくなります。

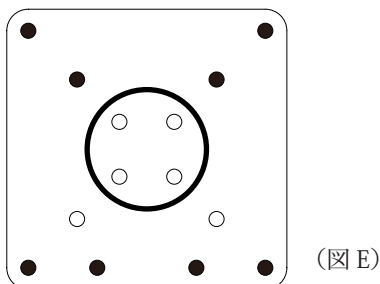
- 4** 続いて脚を取り付けていきます。脚は4本とも同じサイズです。フットアジャスタの反対側の端には、ボルトをねじ込んだ際にパイプがつぶれてしまわないようにと補強金具が差し込まれています。この金具がちゃんとすべての脚に奥まで挿入されていることを確認してください。金具がない状態の脚は使わないでください。

**!** 万一補強金具がずれていてボルトが通しにくい場合は、補強金具を捻って孔とボルトのガイドラインとを合わせてください。



(図 D)

- 5** 4本の脚をK字型に並べ、それを上下の脚取付板で挟んだ状態を、8本のM6x50ボルトを脚を貫通させて止めます（図Eの黒丸印部分を使います）。ボルトは上側から通し、下側脚取付板のネジ孔に**6N.m**でねじ込んで固定します。

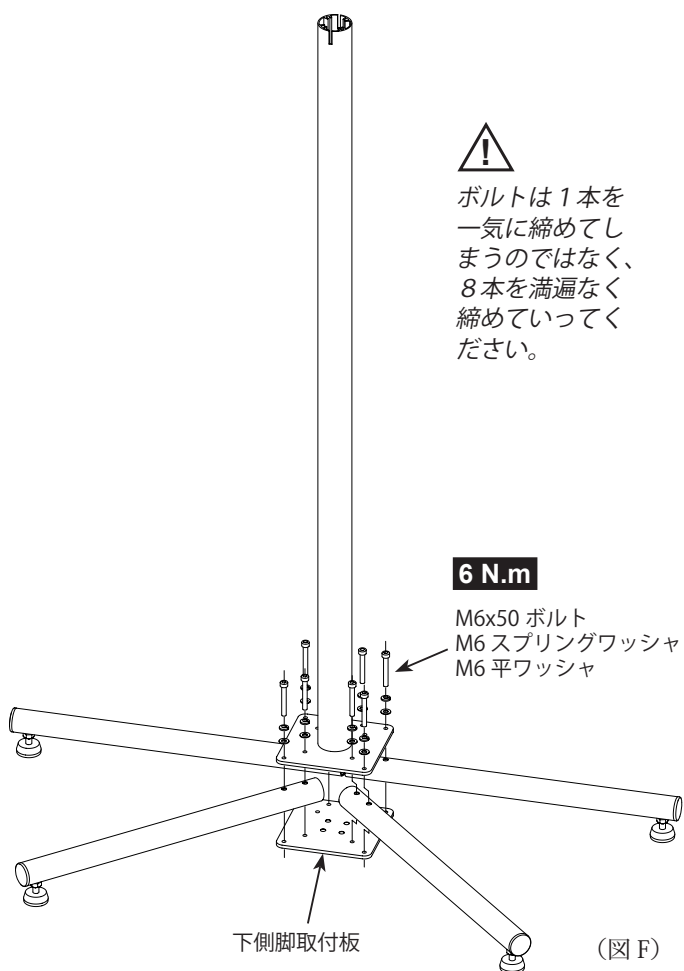


(図 E)

**!** ボルトは1本を一気に締めてしまうのではなく、8本を満遍なく締めていってください。

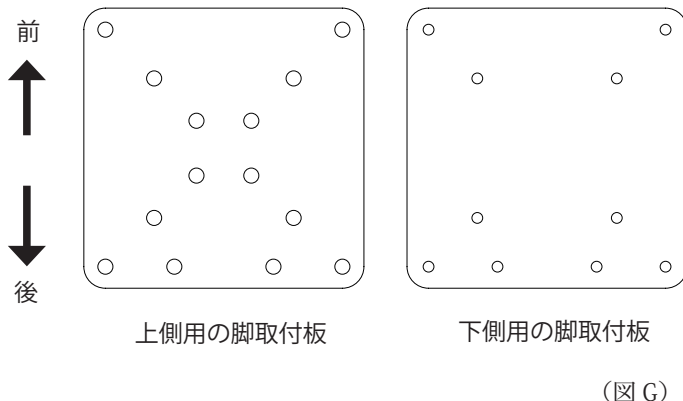
**6 N.m**

M6x50 ボルト  
M6 スプリングワッシャー  
M6 平ワッシャー



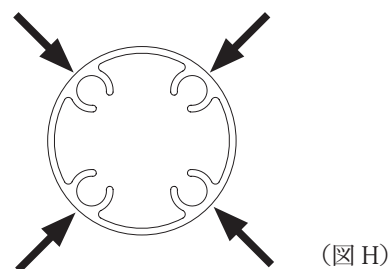
(図 F)

- 1** まずはじめに脚取付板を確認します。2つは同じものではなく形は異なります。上側になるものはボルトが素通しできるような大きめの孔があけてあり、中央に下支柱に取り付けるための4つの孔が設けられています。下側になるものはボルトをねじ込むためのネジが切られた小さい孔があいており、中央部の4つの孔はありません。また孔のパターンはそれぞれ上下対称ではありません。外縁部に横並びに4つあいている側が背面になります。（図G）



(図 G)

- 2** 次に下支柱の上下方向を確認します。下支柱の断面を見て、4つあるC字型の溝部分にボルトをねじ込むためのネジが切られている方が下側（脚が取り付けられる側）になります。ネジが切られていない方は上支柱と接続される側になります。（図H）（上支柱には上端に樹脂キャップが装着されています）

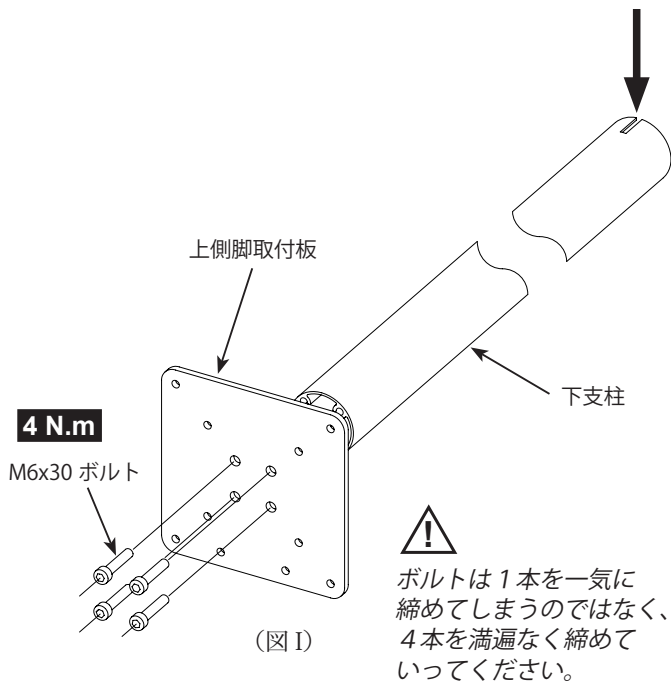


(図 H)

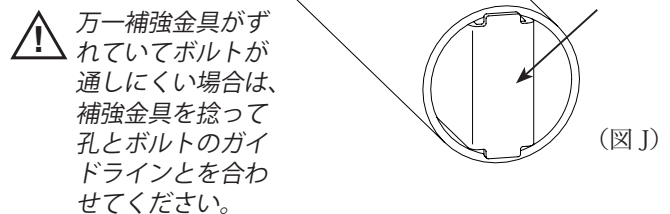
- 3** K字型で脚を組む場合は下支柱じたいの方向性が決められていますが、X字型では決まっていません。どちらを向いても構いません。

下支柱に、上側脚取付板を図Iのようにセットし、中央の4ヶ所の孔にM6x30ボルトをねじ込み、添付の5ミリ六角レンチを使って**4N.m**で締め付けて固定します。

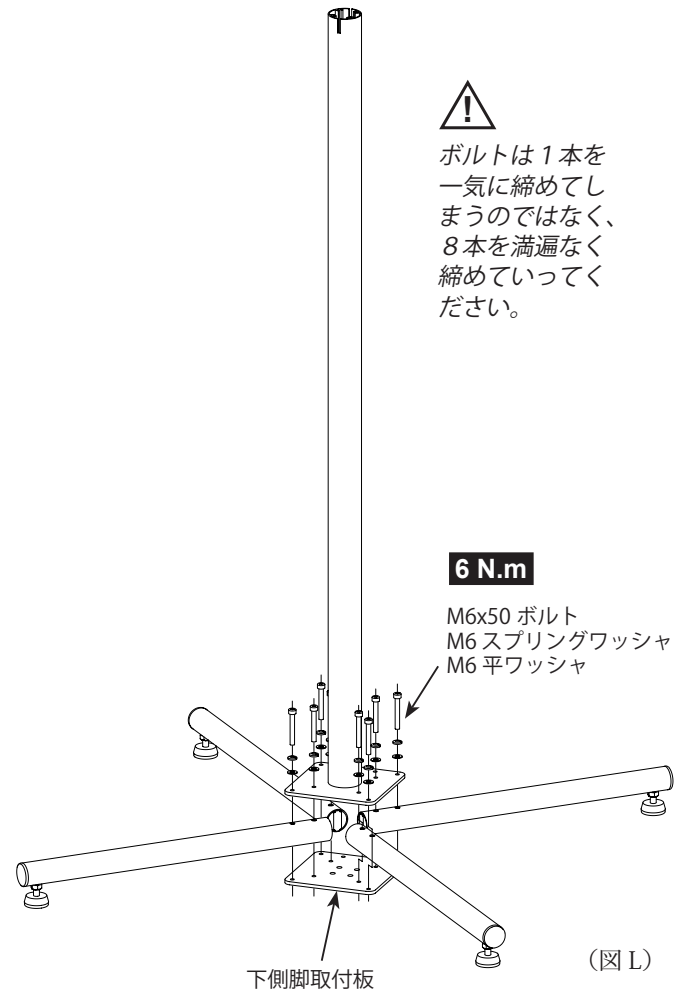
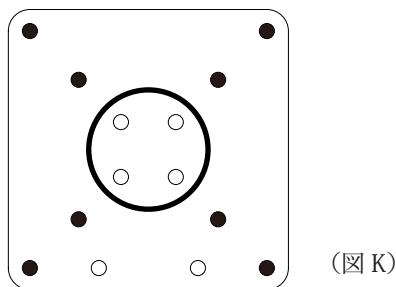
クランプバンドの下にある切り欠き部は  
X字型の場合はどこを向いてもよい



- 4** 続いて脚を取り付けていきます。  
脚は4本とも同じサイズです。フットアジャスタの反対側の端には、ボルトをねじ込んだ際にパイプがつぶれてしまわないように補強金具が入っています。この金具がちゃんとすべての脚に奥まで挿入されていることを確認してください。金具がない状態の脚は使わないでください。



- 5** 4本の脚をX字型に並べ、それを上下の脚取付板で挟んだ状態を、8本のM6x50ボルトを脚を貫通させて止めます(図Kの黒丸印部分を使います)。ボルトは上側から通し、下側脚取付板のネジ孔に**6N.m**でねじ込んで固定します。



## フットアジャスタについて

フットアジャスタは、4点が同時に床に接地し、がたつきなく支柱が垂直に立つようにその長さを調整します。

アジャスタはねじになっているので、ゴム部分を回して長さを調整します。  
長さが決まったら、ロックナットを脚パイプ側に当たるまで回し、13ミリスパナで締め込んで固定します。

## 上下支柱をつなぐ

P-500AL-6S では支柱は上下 2 本に分かれています。支柱は上下とも同じ太さで、芯材を間に挟んでつなぐ方式で組み立てます。上支柱にはあらかじめ芯材が取り付けられています。それを下支柱に挿入してクランプバンドを締め付けて固定するという方式です。

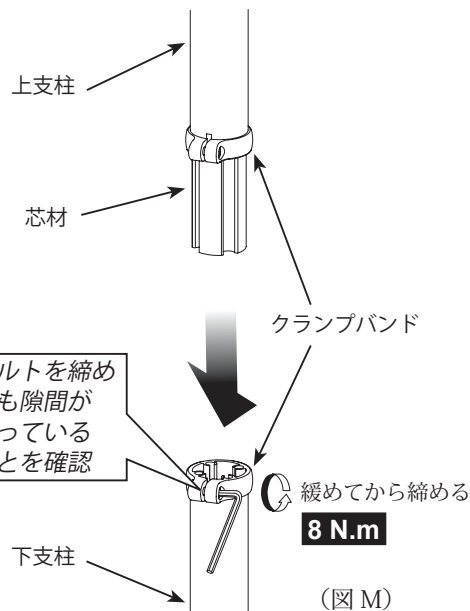
- 1 まず下支柱側のクランプバンドを 5 ミリ六角レンチで緩めておきます。
- 2 上支柱に取り付けてある芯材部分を下支柱に挿入します。
- 3 上支柱を下支柱にしっかりと密着させたまま、クランプバンドを **8 N.m** で締め付けて固定します。上側のボルトも同じく **8N.m** で締めめます。



クランプバンドのボルトは定期的に締め付け具合をチェックし、緩んでいたら増し締めしてください。ここが緩むと支柱が崩落してしまうおそれがある重要なポイントです。

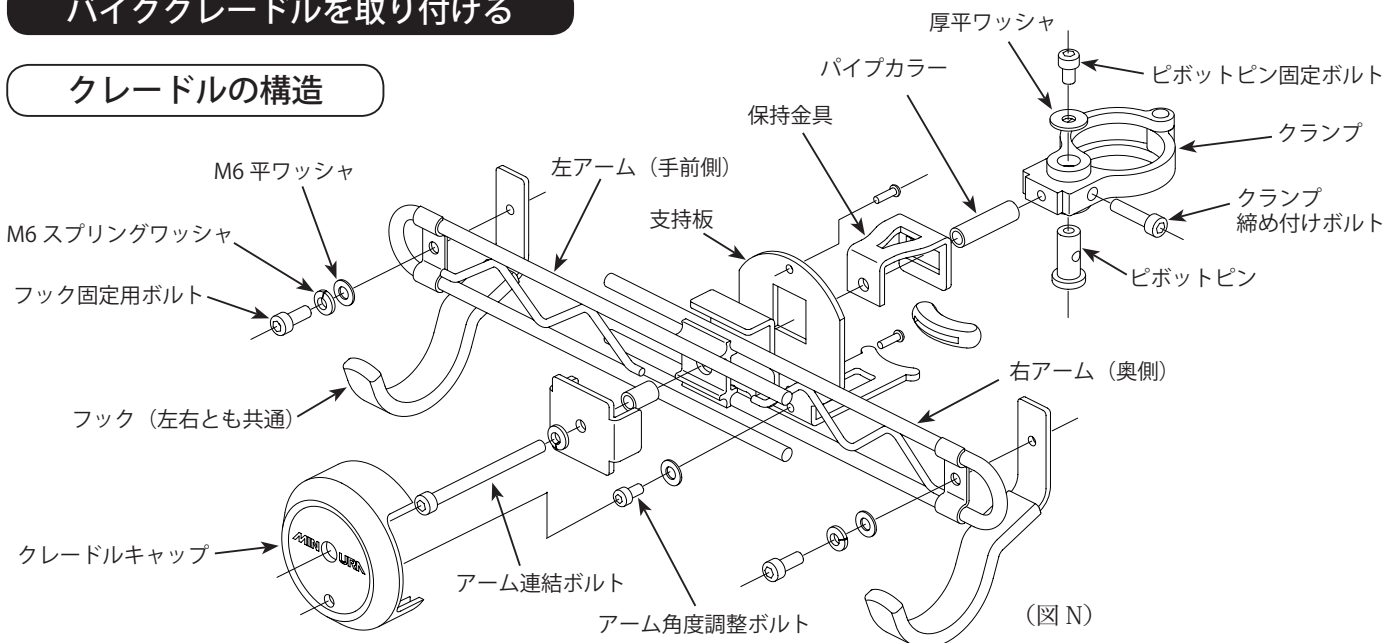


強すぎる力でボルトを締めるとクランプバンドが伸びてしまいます。もしバンドの端と端とが接触してしまう状態になっていたらそれ以上は締めませんので、バンドを交換する必要があります。



## バイククレードルを取り付ける

### クレードルの構造



- クレードルは上下とも完全に共通です。どちらを使用しても同じです。
- P-500AL-6S が採用しているクレードルは、バイクタワー 20 のものとは異なり、クレードルが 1 段手前に突き出しているタイプとなります。これはできるだけ自転車を支柱から遠ざけ、ペダルが支柱に干渉しないようにするためのものです。同じものは「バイククレードル 20.2」の名称で別売もしています。クレードルを増設する際はこちらの方が適しています。
- クランプの樹脂シムは、P-500 では支柱径は太い方の 45 ミリのみなので、バイクタワーのようには付属していません。

- 1 クランプはあらかじめクレードル側に装着されており、お客さまによっていったんクランプを分解し、支柱に巻き付けて取り付けていただくことになります。

クレードルは支柱のどこにでも固定可能ですが、脚を K 字型にする場合は必ず正面（斜めに開いた 2 本の脚の中央）に向かって取り付けてください。X 字型の脚にした場合は、どの向きになっても構いません。



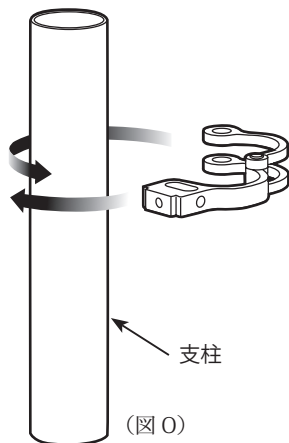
アーム連結ボルトを抜いてクレードルとクランプとを分離してしまうと、クレードルはバラバラに分解してしまいます。アーム連結ボルトは決して抜かないでください。



クランプには左右の方向性はありませんが、ピボットピンは必ず下から挿入され、ピボットピン固定ボルトは上からねじ込まなければなりません。

(※クランプの説明のため、以下ではクレードルを見せません)

- 2** クランプの側面からねじ込んである締め付けボルトを抜き、ピボットピン固定ボルトを抜いてピボットピンも抜き、クランプを開けられるようにしてから、支柱に巻き付けます。(図 O)

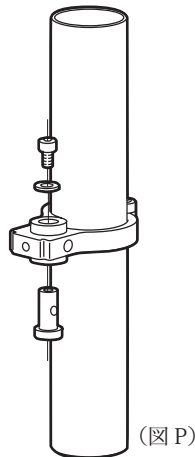


- 3** 重ね合わせたクランプの下側から 3つの孔すべてを通してピボットピンを通し、上から平ワッシャを通したピボットピン固定ボルトを軽くねじ込みます。(図 P)

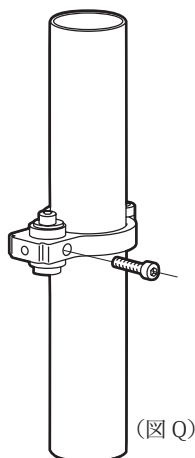


ピボットピンを上から通してしまうと、六角レンチでボルトを回せなくなります。

ピボットピン固定ボルトはまだ完全には締め込まないでください。次の作業が行えなくなってしまう。



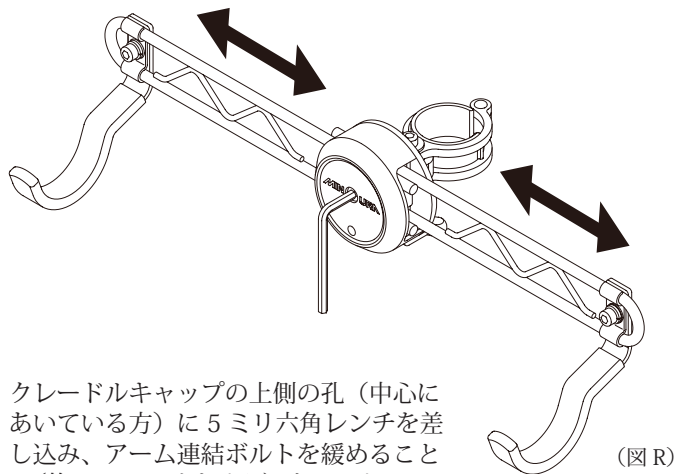
- 4** ピボットピンを回転させ、ピンの側面にあるネジ孔をクランプ右側の孔と合わせます。その状態でクランプ締め付けボルトをピボットピンにねじ込みます。(図 Q)



- 5** 先に側面からのクランプ締め付けボルトを、続いて上からのピボットピン固定ボルトを **8N.m** で締め込んで固定します。

- 6** 最後にフックをクレードルアームの端の金具にボルトをねじ込んで取り付けます。

## アームの左右スライドのしかた



クレードルキャップの上側の孔（中心にあいている方）に 5 ミリ六角レンチを差し込み、アーム連結ボルトを緩めることで（抜いてはいけません）、クレードルアームは左右それぞれにスライドさせることができます。調整が終わったら再びボルトをしっかりと締めて固定します。

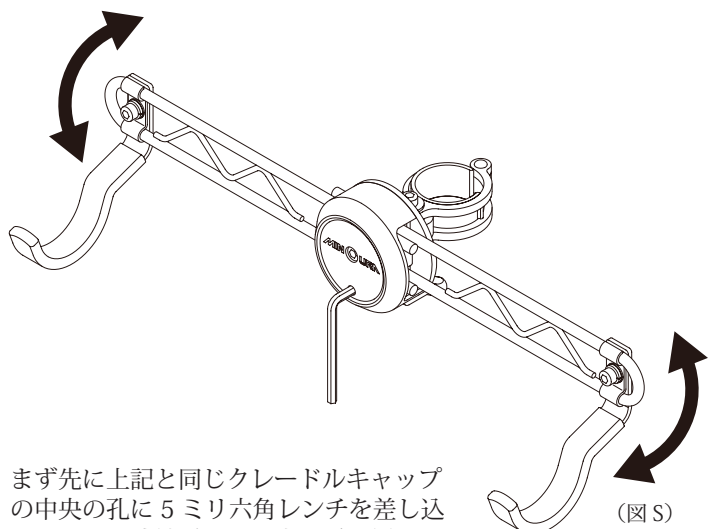


限度以上にアームを引っ張らないでください。アームが抜け、クレードルが分解してしまいます。アームは前後から挟んでいる金具よりも内に引き込まないようにしてください。いったん分解させてしまったクレードルは、クランプから切り離してクレードルキャップを取り外さないと組み直せません。



自転車を搭載したままの状態でもアームのスライド調整を行わないでください。アームが抜けた拍子に自転車が落下する恐れがあります。

## アームの角度調整のしかた



まず先に上記と同じクレードルキャップの中央の孔に 5 ミリ六角レンチを差し込み、アーム連結ボルトを少しだけ緩めます。続いて下側の孔に六角レンチを差し込み、中にあるボルトを緩めることで、クレードルアームは左右連結した状態で上下に傾けることができます。調整が終わったら再び両方のボルトをしっかりと締めて固定します。

もし万一クレードルをクランプに取り付け直さなければ  
ならない場合は、クランプ側の長方形の突起を保持金具  
の長方形の孔に正しくはめ込んでください。

そして上から見てクレードルが正しくクランプに直角に  
なっていることを確認しながら、アーム連結ボルトを  
クランプにねじ込んで取り付けます。

クレードルが少しでも傾いた状態になっていると、  
ボルトはクランプのネジ穴に対して斜めにねじ込んでし  
まうことになります。

もし途中でねじ込みが止まってしまうようなら、無理し  
てねじ込まず、必ず一度抜いてからやり直してください。  
クランプはアルミ製で軟らかいので、誤って斜めにねじ  
込んでしまいネジ穴を破壊してしまうと、クランプを  
まるごと交換しなければならなくなります。

## 自転車を掛ける

P-500に自転車を搭載するには、フックを自転車フレーム  
の下に掛けて支えます。

一般的には左右両方のフックでトップチューブを受ける  
ように掛けますが、トップチューブの傾斜がきついスロー  
ピングフレームやクレードルを斜めに設定した場合は、  
片側のフックをシートチューブとシートステーとの交差  
部の下に掛けて位置決めしてやり、残りをトップチュー  
ブ下もしくはダウンチューブ下で受けるようにすると安  
定します。

自転車は水平よりもやや前下がりの姿勢にするのがいい  
です。(図T)



自転車を前上がりの姿勢にしてしまうと  
前輪の重さでハンドルが勝手に切れ込ん  
できて、ブレーキレバーがフレームに当  
ったり、周囲のものを引っかけたり、  
指を挟んでしまうなどのトラブルを起こ  
す恐れがあります。

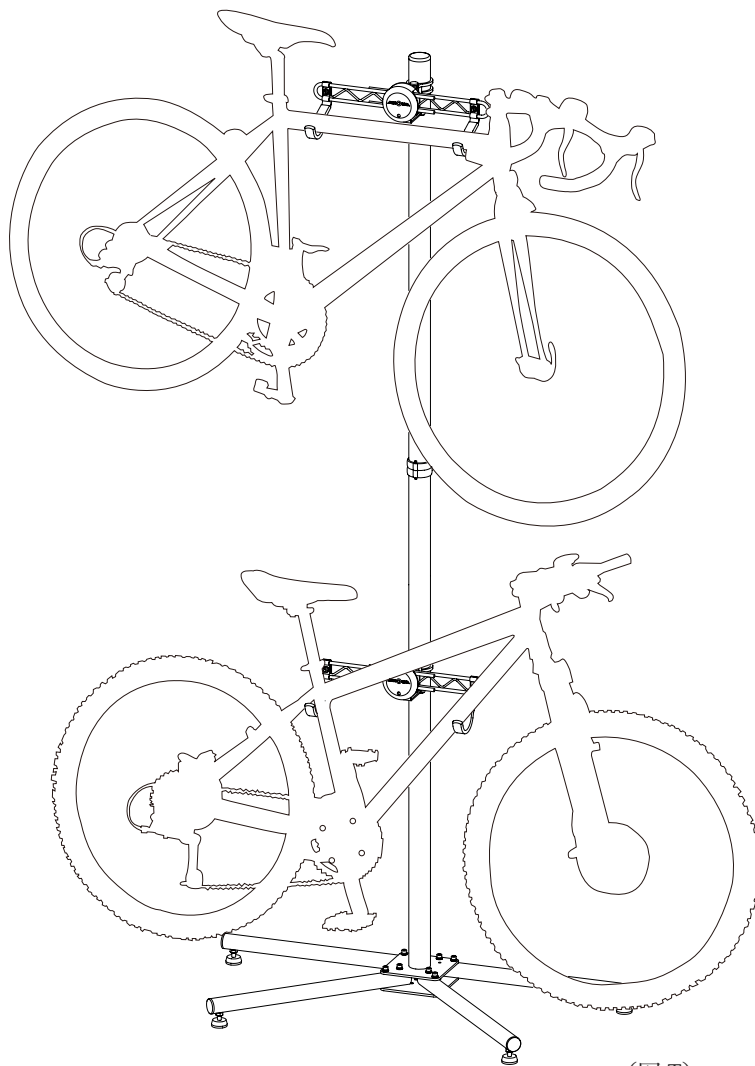
この問題を防ぐためには自転車を水平よ  
りやや前下がりの姿勢にするか、あるい  
はダウンチューブと前輪とをストラップ  
などで結んで動かないようにするなどの  
措置が必要です。



フックによるフレームへの色移り問題は  
皆無ではありません。心配な方はフック  
が直接フレームに接しないよう、パー  
テープの切れ端などを間に挟むなどして  
対処してください。



重い自転車を下段に、軽い自転車を上段  
に掛けるようにすると安定が増します。  
下段の自転車を外し上段のみに自転車が  
残っている状態はバランス的に不安定に  
なります。  
転倒にご注意ください。



(図T)

## 製品保証期間

本商品の保証期間は、お買い上げ日から起算して**1年間**です。製造者側に責任のある不具合についてはその費用は弊社が負担し、無償修理もしくは商品交換を行ないます（修理か交換かの判断は弊社が行ないます）。

ただし不具合の発生原因が製造者側でない場合、たとえば誤った使い方をした場合やボルトを斜めにねじ込んでしまった場合、製造者に許諾を受けていない改造や分解を行なった場合、天災や騒乱、工場出荷後の輸送中に起因する破損など、さらに本商品の最初の購入者でなかった場合につきましては、この保証は適用されません。

詳細につきましては、添付の「製品保証規定について」カードをご参照ください。

また最新情報につきましては、当社のウェブサイトをご参照ください。

## フックによるフレームへの色移り問題

### ⚠ 重要

自転車のフレームの塗装材質（特にクリア層）によっては、フックと接触している部分が黄変するなどの色移りが稀に起きることがあります。特に白色などの淡色のフレームでは目立ってしまいます。

弊社でもこの問題を解決しようとさまざまに研究してきましたが、現時点ではこれといった決定的な解決策が見つかっておりません。フックのエラストマー材と塗料との相性としか言いようがありません。

この問題を防止するためには、フックとフレームとの密着を避けることが有効です。

すなわち、フックの内側にバーテープ片などを貼り付けてみたり、あるいはフック全体を包帯のようなもので巻いてしまい、直接触れ合わないようにすることが効果的かと思えます。

ご迷惑をお掛けしますが、色移りしては困るという方は自衛のほどよろしく願いいたします。

## < K字型パターンでの完成状態 >

